

I 実践

1 研究主題

物事を正しく判断し、進んで行動できる児童の育成

(1) 主題設定の理由

本校の教育目標は「豊かな心もち、自ら学び考え、たくましく生きる児童の育成」であり、それを受けて「やる気（進んで考え行動する子）、やさしさ（友達のよいところが分かる子）、やり抜く（健康でがんばる子）」を目指す児童像としている。昨年度は「思いやりの心」と「伝え合い」を強調した実践を通して、相手の立場や気持ちを尊重する意識を高めることができた。一方で、思いやりの気持ちで行ったことが相手の気持ちに添わないことや、良かれと思ってしたことが思わぬトラブルの原因になる場面が見られた。学校や社会で円滑な生活を送る上では、正しい判断と適切な行動がなければ思いやりの心も伝わらない。

そこで今年度は、目指す児童像の中の「やる気」に関連して重点を置き、生活の中に生きて働く判断力と実践力の向上を目標に、本主題を設定した。今年度も感染症予防のため、限られた行事や活動の中での実践であった。

(2) 研究の内容

- ア 物事を正しく判断するための実践
- イ 進んで行動するための実践

2 実践内容

(1) 物事を正しく判断するための実践

ア 道徳コーナー

教室の背面黒板に、校内で統一して道徳関連の掲示を行っている。道徳で学習した教材についての考えを表現したものや友達へのあったかメッセージなど表現するものを学級ごとに工夫している。教材の内容項目に合わせて一人一人が考えを表現することにより、道徳的な価値判断を確かなものにし、互いに実践意欲を高められるようにしている。年間常掲し、継続的に行うことで、人権意識の向上に努めている。

イ いじめゼロ集会

いじめについて全校で共通理解を図ることにより、物事を正しく判断しいじめを許さない雰囲気を醸成するために運営委員会を中心として企画した。感染症予防の対策として低・中・高学年ブロックごとに1時間ずつ分散して行った。主な内容は、各学級のいじめゼロスローガンの発表と運営委員会によるいじめゼロクイズである。

スローガンは、集会の事前準備として学級ごとにいじめをなくするためのスローガンを話し合うことによって、意識の向上を図るためのものである。当日は、各学級の代表が作成したスローガンとその理由を発表した。各学級とも発達段階に応じた内容で、普段の教室での人権に関する指導が垣間見える作品となり、表現することの面白さが感じられた。(資料②)

いじめゼロクイズは、学校にありがちないじめの場面を寸劇で表現し「自分だったらどうするか」をクイズ形式で問いかけるものである。運営委員会の児童が話し合い、いじめの場面を想定した寸劇の構成を考えた。今年度は人権教育の重点目標である「正しい判断」と「適切な行動」をテーマに、「友達のうわさ話を聞いたときは？」を考えさせる内容となった。友達のうわさ話を聞いたAが、その内容を誤った形で伝えトラブルになった結果を受けて、Aはどう判断し、行動すればよかったか考えさせることにより、今後の行動の仕方について全校児童で共通理解を図ることができた。



【資料① 道徳コーナー】



【資料② スローガン発表】



【資料③ いじめゼロクイズ】



【資料④ いじめゼロクイズ】

集会後には、「いじめゼロのちかい」を個別に表現させ、いじめゼロ集会で学んだことを一人一人の人権意識の向上につなげるようにした。

(2) 進んで行動するための実践

ア 創立記念週間の実施

「滑川小の創立をお祝いしよう」と全校に呼びかけ、創立記念日(11月1日)をはさむ1週間を創立記念週間として実施した。運営委員会の児童が話し合い、滑川小学校が喜ぶこととして、

みんなが「笑顔」で、「挨拶」のあふれる、「安心」できる学校

の3つを掲げた。それらを全校児童の努力目標として資料⑤のワークシートを作り、1週間振り返りを行うことにより意識の向上を図った。内容として「①大きな声で挨拶 ②友達にふわふわ言葉を使った ③友達のいいところを見つけた」など、友達を思いやり行動できたかを問うものと、「あいさつじゃんけん」「滑川小クイズ」の結果など楽しく取り組めるものも織り交ぜて点数化し、意欲的に取り組めるように工夫した。運営委員会は、本実践の中心となり、各クラスを回ってのあいさつじゃんけん、滑川小クイズ、滑川小のいいところアンケート調査の発表などを行った。

なめ川小あんしんカード
～みんなが学校のそりつを喜びましょう！～

年 組

①みんなが「えがお」で「あいさつ」のあふれる
②「いじめ0」の学校ってすてきだね

	大きな声 で あいさつ できた	じゃんけん で 勝ち	クイズ 正答	友だちに ふわふわ 言葉を使 った	友だちの いいところ を見つけた	合計
1日						点
2日						点
4日						点
5日						点
⑤						合計 点

☆いじめ0しよう会にむけて考えよう
いじめ0のためにひつようなことはなんですか？

年 組のいじめ0スローガン

【資料⑤ ワークシート】

イ あいさつ運動

互いに尊重し合う気持ちが高める上でも望ましい行動の実践力を養う上でも、元気な挨拶は欠かせない。あいさつ運動は学期に1回運営委員会が企画して行っている。1・2学期は、運営委員会が中心となり校内の各所に立ったり、各教室や廊下を回ったりして挨拶を呼びかけた。3学期は、委員会ごとに日替わりで昇降口に立って挨拶を行った。いずれも日を重ねるにつれて元気な声が返されるようになり、挨拶の大切さを実感できる取り組みとなっている。



【資料⑥ あいさつ運動】

II 成果と課題

1 成果

期間を設けて創立記念週間といじめゼロ集会に集中的に取り組むことにより、人権についての理解を深めることができた。また、スローガンやいじめゼロのちかいなど、言葉で表現して各学級や人権コーナーに掲示することにより、全校でいじめを許さない雰囲気と人権意識の高揚が見られた。

2 課題

人権に関する正しい判断は小学生には難しい内容もある。道徳や学校教育活動全体と関連させ意図的・計画的に学習することで、経験から学ぶことも視野に置き、一人一人と向き合うことも大切である。

III 人権コーナーについて

いじめゼロ集会で発表した各学級のスローガンを昇降に掲示した。全校児童が朝登校して必ず目に入る場所に常掲することによって、「みんなが笑顔で、挨拶のあふれる、安心できる学校」であることの確認ができるようにしている。

